

週報2023年1月15日

■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
北九州シオン教会

牧師:山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2022年1月15日

ピアノ:赤松姉 オルガン:力丸勝子師

司会:山崎師 献身の祈り:甲野姉 メッセージ:山崎銀次郎牧師

開会の祈り	司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌2「たたえよ救い主イエスを」
祈禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! *
賛美	新聖歌 454「立ちあがれいざ」
献身の祈り	
賛美	新聖歌 256「御翼のもとに」
賛美	コーラス 15「グローリハレルヤイエス勝利」
聖書箇所	ローマ人への手紙 12 章 12 節
説教	「祈りに励む②」
祈禱	「応答の祈り」
頌栄	「主の祈り」
祈禱	山崎師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈り合っていますか

説教要約

ローマ人への手紙 12章 12節 「祈りに励む②」

パウロはローマ人の手紙（3：10）の中で、「義人はいない、ひとりもない」と語っています。この背景にはローマの家々の教会で一部のユダヤ人が異邦人を“律法を守らない”と非難していたからです。しかし、パウロは言います。律法は神がユダヤ人を特別扱いする為に与えたのではなく、罪と言う“違反”を示すもの。そして違反を正す為、言い換えると、神の正しさに立ち返る心を生じさせる為にあると言いました。

パウロは続けて、ユダヤ人は異邦人のモデルになったと言いました。つまり、一度、罪に服していたが、神の救いにより、赦しを受け、救われました。そして、ユダヤ人はモデルとなって、世界という舞台（モデルだけに）に立ち、神の義（イエス・キリストによる神の救いと赦し）を発信する為に選ばれたと言っています。そして、そのモデルに倣って異邦人も同じ舞台に立ち、同じ共同体として神の救いを世に発信している、これが教会です。とパウロは言っています。

つまり、律法は人の優位に立つ事や、相手を裁く為にあるのではなく、今ある神の恵み（兄弟姉妹と心を合わせて礼拝する事が赦されている）が生じる為にあるとパウロは言っています。私達は義人ではなく、神によって義とされた者です。ローマ書、12章冒頭のこういうわけ、とはそういうわけです。私達がまず礼拝で捧げるのは恵みに対する感謝です。救いを受け取るに条件は必要ありません。感謝をささげて参りましょう。

ローマ書12章以下は主に在る共同体にむけて、改めて一致を促しています。パウロが言いたいことは“**教会（共同体）の一致は神の恵みによって心に生じた、赦しと愛を实践する事で生まれる**”と言う事です。例えば、12章の根底に流れているテーマは“謙遜に相手に仕える”ですが、これもキリストの愛と赦しの実践であり、お互いが謙

遜に仕える事で、共同体は一致に向かうと言う事です。

そこで12章12節の、“祈りに励みなさい”とパウロが言った理由が見えてきます。パウロがローマ人の信徒に促していることは“あなたがたが祈る事によって生じた神の恵みに従って、愛と赦しを絶えず実践しなさい”という事です。一致の鍵は“祈り”です。

言い換えると、一致の鍵は“愛と赦し”だとも言えます。改めて教会成長とは人数の増加、プログラムの質の向上、建物の立派さではありません。共同体の人間性の質を高める事です。しかし誤解を恐れず言うと、礼儀作法を磨き、自己啓発が主体ではありません。**共同体の質の向上とは互いに赦し合う関係に発展**していくことです。祈りとは主の愛を追い求める事であり、赦しを追い求め続ける事です。主が向けて下さった、私に対する愛と赦しを知る事が祈りのスタートです。

ローマ書（14：23）に「信仰(確信)から出していないことは、みな罪です。」とあります。怖く、厳しい箇所のように思います。パウロが言いたいことは、信仰の強さとは聖書の言葉に厳しく向き合う事ではなく、どれだけ神の赦しに依存しているかということ。つまり聖書の言う幸せとは、自分は赦されていると確信を得る事です。（ローマ書15：19～23）

つまり赦されている確信（信仰）がないと、律法順守や偶像礼拝に依存し、人の批判や対立につながる事をパウロは伝えたかったのです。パウロの強調は批判ではなく赦しです。非難より諭しです。こうして聖書を学ぶ時に、私達が何に対して希望を抱くのか見えてきます。それは主の赦しは十字架の恵みによって永遠だと言う事です。確信による祈りは愛が生じ、謙遜が生じ、執り成しの心が生じ、一致が生まれます。

人は幾つかの祈禱課題の中に答えの出ないものが、あるように思います。私もそのような課題を持っています。しかし大切な事は答えを得る事ではなく、確信を得る事だと私は信じます。今年の教会の信仰指針は“祈りに励む”です。教会が祈りによって揺るがない確信を得た分、揺るがない愛と赦しと一致のある教会と変えられて行きます。望みを抱いて祈り、艱難に耐え絶えず祈りに励んで参りましょう。